



柏木隆志医師

好酸球性副鼻腔炎は、00年ごろ明らかに became a new disease. 14 years of diagnosis with a guide line. It is a disease that can be prevented by taking antibiotics. It is a disease that can be prevented by taking antibiotics. It is a disease that can be prevented by taking antibiotics.

鎮痛薬に対するアレルギーがある人は重症化

獨協医大病院・柏木医師に聞く

8月7日は「鼻の日」 難病の好酸球性副鼻腔炎

成人で発症し、多発した鼻たけ(ポリープ)で呼吸が苦しくなることもある「好酸球性副鼻腔炎」。一般的な副鼻腔炎とは異なり原因不明で再発しやすい難治性で、2015年に難病指定された。長期的なステロイド治療による副作用が懸念されてきたが、ステロイドの量を低減する試みも始まっている。獨協医科大病院耳鼻咽喉・頭頸部外科の柏木隆志医師に症状や最新の治療法などを聞いた。8月7日は「鼻の日」。(外山雅子)

ポリープ多発や嗅覚障害

しやすい傾向があり、注意が必要だ。中耳炎を合併し、聴力が低下することもある。

早期受診を

一般的な副鼻腔炎の治療で処方されるマクロライド系抗生物質が効かないため、抗生物質で改善しない場合は好酸球性の可能性がある。

手術と服薬

特徴的な症状は、左右の鼻腔や副鼻腔の粘膜が腫れ上がったポリープの多発。さらに強い嗅覚障害や鼻詰まりなどにも悩まされる。嗅覚障害は時間が経過すると嗅覚を失うことがあるため、早期受診

をしたい。

診断ガイドラインでは、ポリープの有無や末梢血中の好酸球率の高さなどで疑いの高さを点数化。確定診断は手術で採取したポリープにどれだけ好酸球が入りこんでいるか病理検査をしてからになることが多いという。

治療の基本は、ポリープや粘り気の強いゼリーのような分泌物ムチンなどを取り除いて副鼻腔を空洞化する手術と、炎症を抑制するステロイド服用の組み合わせ。

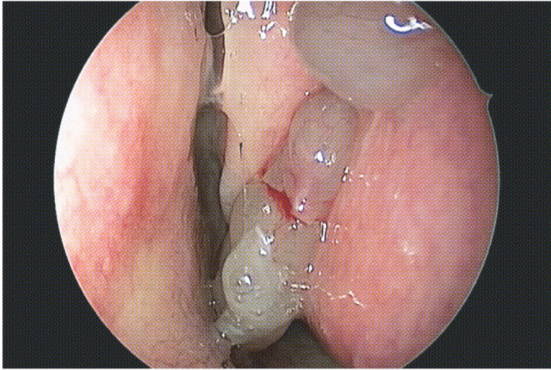
しかし「手術でポリープを除去しても再発しやすい、またステロイドを減らせば再びポリープが大きくなって

しまう」と柏木医師。難治性たるゆえんだ。ステロイド内服は長期間にわたり、胃潰瘍や骨密度の低下などの副作用も問題視されてきた。

副作用軽減

そこで近年、ステロイドの量を減らす術後療法が一部の患者に取り入れられている。約2週間ごとに通院し、ステロイドを染み込ませた溶ける綿を副鼻腔に詰める治療だ。少量で局所的に粘膜に効くため、長期服用による合併症のリスクを軽減できる上、ポリープの再発も抑制できるとい

柏木医師は「嗅覚の低下など生活に支障を来すことが多い疾患だが、治療によって生活の質は改善できる。手術後も根気よく、定期的に通院することが大切」と話している。



好酸球性副鼻腔炎で多発したポリープ(獨協医大提供)